

20世紀後半のファッ  
ション史を語るのに欠  
かせない写真家がいま  
す。ヘルムート・ニュ  
ートンです。

1920年、ドイツ

に生まれ、ナチスによるユ  
ダヤ人迫害を逃れてシンガ  
ポール、オーストラリア、  
ヨーロッパへ渡り、60年代  
から80年代にかけて「ヴォ  
ーグ」をはじめ世界の一流  
ファッション誌で写真家と  
して活躍。スキャンダラス  
な写真で名をあげ、帝王の  
ように振る舞っていました  
が、2004年に事故死し  
ました。

議論を巻き起こしながら  
も周囲の人々から愛され  
た、稀代の「悪ガキ」。生

# Style アイコン

## 【ヘルムート・ニュートン】



Self portrait, Monte Carlo, 1993  
©Foto Helmut Newton, Helmut Newton Estate  
Courtesy Helmut Newton Foundation

### 女性の強さ撮り続けた「悪ガキ」

誕100年を記念したドキ  
ュメンタリー映画「ヘルム  
ート・ニュートンと12人の  
女たち」が、12月11日から  
公開されます。

彼は、着せ替え人形が並  
んでいるような退屈なファ  
ッション写真の世界に、シ  
ョックと不穏を持ち込みま  
した。挑発的でエロティッ  
ク、退廃的で心をざわつか  
せる写真のモデルたちは、  
時にヌード、あるいは医療  
器具に似たものをつけてい  
ることも。サディスティッ  
クな感性が匂うものもあ  
り、女性蔑視と批判する学

者もいます。実際、今なら  
ば「炎上」しそうな写真も  
あります。

しかし、写真の中の女性  
たちから伝わってくるの  
は、自立した強さです。彼  
が撮るヌードが表現するの  
は、女性たちは高価なデザ  
イナーの服など着なくても  
強くて美しいのだ、という  
女性への敬意です。

彼の写真の威力もあっ  
て、1970年代のイブ・  
サンローラン、80年代のカ  
ール・ラガーフェルドらの  
作品は、輝きを失っていま  
せん。サンローランのタキ

シードルックは、ニュート  
ンによる夜のパリの艶やか  
な写真により、永遠に歴史  
に刻まれることになりました。  
ファッションの影響力  
には、写真が多大な貢献を  
しているのです。

ニュートンの写真を「セ  
ンスがいい」と陳腐な言葉  
で褒めようものなら、戯れ  
にハイヒールを履いた足で  
「汚い言葉を使うな」と蹴  
飛ばされるでしょう。「敵  
が多いほど光栄だ」と斬新  
な表現で世間に挑んだ写真  
家は、ファッションにとっ  
て大切なのは、服ではなく  
アティテュード(態度)な  
のだということ、作品と  
生き方で教えてくれます。  
(エッセイスト 中野香織)